

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

吹く風が肌に心地よいこの頃ですがお変わりございませんか。先日長寿1位は関東横浜市青葉区と発表され驚きましたが、秘訣は青葉区役所福祉保健課の見解によりますと「ウォーキングとかそういうことに積極的に取り組んでいる方が多いので長寿化につながったのではないか」との事。また、「ソー

シャル・キャピタル」という考え方をもとにした取り組みも昨年からはじめており地域全体の人間関係の豊かさが高まるほど健康や幸福感が高まるという考え方だそうです。逆に短命の地域は塩分摂取が多く運動量が低下しており移手段が車との事。青葉区のように自治体ぐるみで取り組みれば健康都市も夢じゃないと中央大学法科大学院：野村教授が見解を述べております。これからの長寿社会において見習いたいと思いました。

寒暖の差が大きい季節柄、なおいっそうご自愛下さい。

サンライズの物語

奥様の強い思い、最後の願いを叶える物語



その方との出逢いは、末期の大腸癌に罹患して自宅への支援体制を整えて欲しいとの大学病院のMSWからの依頼があった時でした。病院へ初回訪問しようと日程を決めておりましたが、腫瘍の進行が早く在宅へは戻らずにホスピスへ転院すると連絡が入ったのでした。

1ヶ月が経ち、今度はホスピスの担当看護師からの連絡……ご本人様がどうしても自宅へ戻りたいと希望しているとの事。某月3日に病院へ看護師、福祉用具と訪問すると意識も混濁しておりご主人様が泊まり込みで看病していたのでした。

担当看護師からは自宅へ戻っても1週間は持たないだろうとの見解でしたが、ご主人様も奥様の願いを叶えて欲しいとの一途な思いの中次の日に退院する事となり自宅へ戻りました。

自宅へ戻った当日、大好きなご主人様と一緒に近所へ車椅

子で散歩へ出掛けた時の満面の笑顔が印象的でした。

次の日に訪問入浴を利用して入浴しましたが4日後に眠りについたのでした。

ご主人様にお悔やみを申し上げる為訪問すると泣きじゃくっておられ、昨日も息子さんが奥様の両指にマニキュアを塗っていたとの事。

元々アパレル関係の仕事に従事していた奥様はおしゃれをするのが大好きだった事もあり、とても喜んでいただとの事。最後まで息子さんと一緒に奥様の耳元で話し掛けていたとの事。

ベットの上で眠っていたお顔が安らかで、ご家族様に見守られて天国へと旅立ったことだと思い涙が溢れてきました。

ご家族様、ご本人様の強い思いが叶えられた最期だったと思います。

介護に役立つ書籍紹介

70歳をすぎた親が元気なうちに読んでおく本

著：永峰 英太郎 漫画：たけだみりこ

親の介護と死亡がいつ頃にやってきた！

認知症になった親、病気になった親の銀行口座からお金を引き出す方法わかりますか？親の老後と安心して向き合うために、今のうちから準備しておこう。

知らないと損をする、万一のことが起こる前にやっておくこと&知っておきたい制度・手続きがチェックシートで分かります。



NEWS 今月のニュース

傾聴ボランティア 「話し相手」にやりがい

三田市で高齢者や障害者らの「話し相手」活動を続けるボランティアグループ「ひだまり」が7月から、傾聴ボランティアを養成するための講座を開く。「思いの丈を気軽に語りたが、身の回りに相手を見つけられないお年寄りも増えている。そんな人の手助けになれば」。竹川佳代子代表（69）はこう話し、「気軽に参加してほしい」と呼びかける。

ひだまりはボランティアに関する講座などを受講した市民が2002年につくった。現在メンバーは17人。市社会福祉協議会を通じて依頼を受け、話し相手を必要

とする人の自宅や施設を訪問。約1時間～1時間半、話に耳を傾ける。

地域で開かれるサロンなど、高齢者の交流の場は増えているものの、人見知りだったり施設の生活になじめなかったり、「寂しい」と声を上げられない人もいる。昨年度は30～90代の15人のほかに施設を訪問するなどし、話し相手を381回務めた。

若い頃の自慢話や同じ話を繰り返す人、次第に話が大きくなる人もいるが、メンバーは相づちを打ちながら聞く。受け身のスタンスで話を深掘りしないのが鉄則だ。細見晃次副代表（70）は「親族や介護職員にも言えない本音を語り出す人もいる」という。

2年ほど前から活動する下村さつきさん（66）は「別れ際に『次を待ってますよ』と言われると、それだけでうれしい」と話す。別のメンバーの女性（69）は「認知症を抱え、最初はとげとげしかった高齢者が、話し相手として会うことを重ねるうちに表情が柔らかくなった。やりがいを感じる」という。



< 毎日新聞
2018年5月15日(火) >

今月の 名言

私たちのしていることは大海の一滴に過ぎません。
だけど、私たちがやめたら確実に一滴が減るのです。

マザー・テレサ

貧しい人々のための活動は高く評価され、1979年にはノーベル平和賞を受賞しました。数々の名言がありますが、どの言葉からも、途方もなく長い道のりも一歩ずつ積み続けるような、確固たる精神の持ち主であったことが窺えます。

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>